

地域で、みんな幸せに!!

「みんなでつくるふれあい支え合いのまち川越」を目指して



10月6日は、バルーンアートを制作。強い雨が降っていたにもかかわらず、13人が参加し、会話も十分に楽しめました。左写真の後列右端が佐藤さん



「たまり場小江戸せきれい停」

南台自治会館を会場に週1回、金曜日の午前中に開催しています。高齢者から子どもまで、地域の誰かが集まれる場所をつくるという目的で始まりました。1回の会費は大人が100円、小中学生が50円。参加者は大東地区に住む皆さんが中心で、平均して12人ほどが集まります。内容により、時には20人を超えることもあるそうです。

「和道文化クラブの会員が世話人として、運営にあたっています。キーボードを演奏して歌を歌ったり、郷土を好きになってほしいと大東地区の昔の様子などの話を聞いたり、手まりやバルーンアートを作ったり、散策や見学に行ったりと、みんなで楽しめるさまざまな催しを行っています。これらの講師をお願いした方は雰囲気^{さとうはるみ}がいいと言って、世話人になってくれます」と、世話人代表の佐藤晴美さん（59歳・南台2丁目）。続いて、「現在、世話人は19人。そのうち男性が7人います。今まで、福祉の活動^{みなみだい}という、女性が主体でした。世話人に男性がいると、できることが広がっていきます。男女共同参画社会の実現も、目指していきたいですね。いろんな人が集まり、かわっていくことでお互いへの理解が進みます」と、伺いました。

「せきれい停」の活動報告とPRおよび地域の交流を広げるために、昨年から文化祭「いきいき祭り」を開催しています。ことしは11月11日・12日に開催され、300人近くが来場しました。会場には、参加者の皆さんの作品と共に幼稚園児の絵を展示しました。また、子どもたちの少林寺拳法の演武や、地元に住んでいるプロによる太鼓演奏が行われました。会場には外国籍の方の姿もあり、さまざまな方の交流の機会づくりを実践している雰囲気が伝わってきました。

「少しずつ、せきれい停への参加者は増えています。いっしょに泣いたり、笑ったりできる仲間がいます。ですから、もっと多くの皆さんに来てほしいですね。1月19日(金)には、アイリッシュハーブの演奏会を開催します。ぜひ、この機会に聴いてください」と佐藤さん。

地域福祉とは？

かつては、困ったことがあると身近な人々が集まり、お互いに助け合って生活してきました。そのころは、近くにどんな人が住んでいるのかを、ほとんどの人が知っていました。

ところが最近では、隣近所に住む人の顔がわからないという方も多いのでは？ このような状況が、高齢者の孤独死・児童虐待・子どもの連れ去り・引きこもりなどの原因の一つとなっています。

今までの福祉制度は、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉など対象を分けて、公的な機関がサービスを提供していました。しかし、現状の年金制度や施設では、自分の家で生活したいという一人暮らしの高齢者を、ずっと見守っていることはできません。現状の制度が充実したとしても、

ことし三月、市は「川越市地域福祉計画」を策定し、同計画に基づいた施策を行っています。

この企画記事では、施策の一つである「地域福祉活動補助金交付制度」の補助金の交付を受けた団体の活動と「地域福祉」についてお知らせします。

問い合わせ：保健福祉推進課保健福祉推進担当・TEL内線2513



11月11日、「いきいき祭り」の受け付けを担当する有田杉江さん(91歳・南台3丁目)。「できることがあれば、何でもやります!!」

参加者から……

より充実した毎日に

ささき よしこさん
みなみだい

(南台3丁目)



「いきいき祭り」の展示会場で、牛乳パックのいすを手に

昨年、友人の紹介で「たまり場小江戸せきれい亭」を見学しました。もともと、物を作るのが好きでしたので、手芸などを和気あいあいと楽しむ姿を見て、参加することに決めました。

文化祭の開催にあたって、牛乳パックを材料にしたいすを作ろうということになり、まとめ役を任されました。講習に参加して作り方を覚え、みんなで力を合わせたおかげでうまくいきました。その時は、とてもうれしく思いました。

60歳を超え、生活を楽しくもうと園芸・カラオケ・グラウンドゴルフを趣味として続けてきました。そして、「せきれい亭」に入り、毎週、仲間と会って、話をしたり、物作りをしたり……。より、充実した毎日を過ごしています。これからも、楽しく生活していきたいですね。



野外の特設会場では、太鼓の演奏や少林寺拳法などを披露。展示コーナーには子どもたちの描いた作品もあり、いろいろな世代の皆さんに来場してほしいという意気込みを感じました

みずからの自立に向けた努力を「自助」、地域の中での助け合いや事業者などの福祉サービスを「共助」、行政による公的サービス・支援などを「公助」といいます。

例えば、一人暮らしの高齢者にとって、周りの皆さんにあいさつを交わすなどとして、地域との関係をつくらうとしていくのは「自助」に当たります。地区社会福祉協議会の配食サービスや、老人クラブ

自助・共助・公助

支え合いの仕組みづくりは、地域に住む皆さんひとりひとりだけでなく、地域にある団体や事業者、市をはじめとする行政が、それぞれの役割を認識して活動していくことが重要です。

解決できないことが多くなってきました。

これからの福祉は公的な制度や施設を整備するだけでなく、地域に住む皆さんと団体や事業者の皆さんが力を合わせて支え合い、地域ぐるみで活動することが必要となっています。これが、「地域福祉」の考え方です。